（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２３　年度（令和　５　年度）学校評価自己評価表

幸千中学校区	校番　１５	福山市立御幸小学校
	最終更新日	2024 年（令和６年）２月９日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

〇コロナ禍における厳しい現状の中でも，児童・生徒のために活動を拡大・充実し取り組んでいる。
●積極的な情報発信を行い，校区の学校・保護者・地域とより連携を深めて欲しい。

児童生徒の現状

・ICT 機器の活用スキルは上がっているが，モラルに課題がある。
・コロナ禍での活動制限により運動不足，体力が低下している児童生徒が増加している。
・コミュニケーションの希薄化から不登校傾向の児童生徒が増加している

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）	思考力・創造力　表現力　思いやり　能動的市民性
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	〇主体的に学び　よく考える児童生徒　〇自分なりに表現し伝え合う児童生徒 〇思いやりのある児童生徒　〇人や社会に貢献しようとする児童生徒
中学校区として統一した取組等	〇住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科と関連づけたカリキュラムを実施することで，めざす子ども像に迫る取組を行う。 〇生徒の実態を細やかに分析し，生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。

Ⅲ　自　校

ミッション

一人一人が自立し，社会に貢献できる子どもの育成

学校教育目標

自ら考え　行動し　挑戦する児童の育成
～自考・自行・自挑～

現　状

- 高学年がリーダーとなり，学校行事，委員会活動など今までと同じではなく，相手意識を持ち，アイデア豊かに挑戦しようとする姿勢が増えてきた。
- 「授業で考えることで，わからないことがわかるようになりましたか」89%,「自分で計画を立てて，学習をすすめることができましたか」83%。「友だちの意見につなげて発表していますか」47%。
- 教師や大人の指示をよく聞いて動くことができる一方，自分から気づいて考え行動する力が十分ではない。
- 長期欠席児童は一昨年度 17 名，昨年度 15 名。
- チャレンジ学習に取り組み，児童が自らの興味・関心に基づいた学習に浸ることができるよう，全校として力を入れている。
- 地域の方々の学校への協力，愛着が強く，学校を支える風土が強い。一方宅地造成等で新たな居住者も激増し，困難な課題も増加している。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）	思考・想像力	表現力	思いやり	能動的市民性
めざす子ども像	自ら問いを見つけ，見通しを持って，調べたり考えたりしながら解決することができる。	目的や理由・根拠をとらえ，相手意識を持ち，自分の考えを伝えることができる。	お互いの立場や意見を尊重し，相手も自分も大切にし，協働しながら生活を高めることができる。	身の回りから課題を見つけ，学校生活をよりよくするために，仲間と協力して解決することができる。

研究	テーマ	問いを持ち，「対話」を通して，学びを深める子どもの育成 ～付ける力を明確にした言語活動の充実～
	内容等	国語・算数・特別活動・生活＆総合的な学習の時間を中心に
めざす授業の姿		児童自らが問いを持ち，つけたい力を明確にし，友達と協働しながら課題を解決して学びを深める授業

福山市立御幸小学校

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	自ら学びに向かう力，学び続ける力を育成する。	1	新規	探究的かつ多様な学び方ができる単元をデザインし，児童が学習内容・方法を選択して「できた」「もっと学びたい」が実感でき，学力向上を図る授業をつくる。	研究授業や学びづくりタイムを通して，教員の教材研究力を高める。また，児童にとっての深い学びや意欲の向上につながる授業づくりを行う。	・児童アンケート「授業を通して考えることで分からないことが分かるようになった。」90%以上 ・単元末テスト（国・算）の平均通過率80点以上80%	○肯定的評価は92.4％であったが，表現力や活用力を高めていく必要がある。 ○単元末テスト平均通過率 80 点以上の割合はは，国語６８%，算数６６％であった。授業改善を行い，基礎・基本の学力の定着を図る必要がある。	3	2	○学びの変容を意識して，自分の言葉で授業のまとめや振り返りを書かせる。また研究授業を通して，授業力向上に努めていく。 ○付ける力を明確にした授業づくりを国語・算数で行い検証をする。 ○帯タイム（チャレンジタイム）を活用して，基礎学力の定着を図るために，実施するだけでなく，学期ごとに評価問題を行うことで，検証する。	◎学校生活アンケートの肯定的評価は，92%であった。 ◎単元末テスト平均通過率 80 点以上の割合はは，国語 66.7%，算数 68.3%であった。 □職員一人一人が研究主題に照らし合わせながら研究授業を行うことで授業力の向上に努めた。 □分析シートや帯タイムにかかわる取組など，学校全体で進める取組について振り返る機会を設けることで，成果と課題を捉え，児童の学力向上に学校全体で取り組むことができた。	3	2	3	学力向上を図る授業づくりのために，研究主題と日々の教材研究がつながるように研修を行う。また，振り返りの視点を明確化し，児童の変容を捉える視点を職員全体で共通理解する。 今年度の帯タイムの成果と課題，学校課題を踏まえて来年度の帯タイムの活用について検討する。
1	互いを認め合える豊かな心を育成する。	3	新規	多様な人間関係の中で様々な価値観に触れることができるように，多様な集団での活動の場を設定し，豊かなコミュニケーション力を高める。	縦割り班活動やさまざまなグルーピングを行い，清掃活動，係活動，当番活動等において多様な人間関係の中で自己の役割を果たす。	・学級の友だちとの話し合い活動を通して，自分の考えを広げることができた。 ・委員会や係活動などで自分の役割を果たしている。 80%以上	○全校で縦割り班を編成し，9月2週目から清掃活動を行い，異学年での交流の機会を増やしている。 ○9月に実施したアンケートによると「委員会では自分の仕事ができた」94.7%，「学級での当番活動では自分の仕事ができた」96.3%の肯定的回答を得られた。	3	3	○児童会などが中心となって，異学年レクリエーションなどを企画・運営し，友達と関わる機会をより増やす取組を推進する。 ○創意工夫を生かしたり，主体的な行動を促したりする委員会活動にするため，児童朝会で活動内容の発表をする。また，教員の意識を変えるための声掛けを職員会議などで定期的に行う。	◎1月に実施したアンケートによると「他学年の友達との話し合い活動を通して，自分の考えを広げることができた」80%(9 月は 70%)の肯定的回答が得られた。 □縦割り班活動を，清掃活動だけでなく遊びにも生かすことができた。また，年度末には6年生を送る会にも生かす予定である。 □全校で名札チェックを行い，人間関係作りのきっかけとなる相手の名前を知るための手立てを行った。	3	3	3	○多様な人間関係作りの場を，縦割り班のみならず，登校班などに広げていく取り組みを考える。 ○教員の意識を変えるため「秘密の友達」や「子どもの良さを交流する時間」を設定し，改善を進める。 ○前期児童会が中心となり，各委員会と協力しながら取組を進める。
1	目標に向かって計画的に運動に取り組み，自分に合った方法で安全に運動をすることがで	2	新規	運動の良さを体感させ，運動量を増やす。 病気の予防，けが防止への関心	体育科の前段運動やＩＣＴを使った家庭での運動の啓発を行い，体力を高めるための機会を増やす。 運動の効果についてワークシートに記述させる。 児童朝会で病気の予防・けが防止についてのポ	運動の良さを感じ，楽しんで体力を高めることができた。 85%以上 病気の予防，けがを防止するために，健康・安全を意識して過ご	□運動の良さを感じ，楽しんで体力を高めることができたと答えた児童は８５%であったが，今後も継続して運動啓発をしていく必要がある。 □病気の予防，けがを防止するため	3	2	○ＩＣＴを活用した家庭での運動啓発を継続して行うと共に，体育的行事に向けて児童が体力を高められるような活動を仕組む。 ○体育科ワークシー	◎学校生活アンケートの肯定的評価は，運動面は91%，健康・安全面は92%であった。 □体育科の前段運動や家庭学習への取組等により児童の運動量を増やすことができた。	3	3	3	体力低下の児童実態を受け，運動量を増やす取組を継続しつつも，自己の運動目標を立てて年間を通して体力向上に意欲的に取り組めるようにする。

	きる児童を育成する。			を持ち，健康・安全への意識を高める。	イントを指導する。 体育科ワークシートに想定されるけがを明記する。	すことができた。 80%以上	に，健康・安全を意識して過ごすことができたと答えた児童は６８％であった。			トに想定されるけがを児童自身が考えて書くことで，けがへの注意喚起を行う。	□児童朝会やワークシートで健康・安全に向けて啓発することができた。			時期に合わせた病気の予防や，具体的事例に基づくけがの防止の取組を行い，注意喚起していく。
2	児童は活き活きと学び，職員は活き活きと働く学校の創造	4	継続	子ども主体の学びづくりに向けた時間を保障し教師の指導力を向上させることで学びの活性化を図る。	①組織的業務改善の推進（学年主任会，校内衛生委員会の有効活用） ②教員間による日常的授業観察の推進	①100NEN教育アンケート「子どもが自ら学ぶ」授業づくりにあてる時間がある。」 ②「仕事にやりがいを感じている」 85%以上	□肯定的評価は68.3%であった。学び作りタイムで教材研究の時間をもつことはできている。学年会の活用状況を調べる必要がある。 □の肯定的評価はは97.6%であった。やりがいを感じている内容を交流し，さらに後期も子ども達に力をつけていけるようにしたい。	3	2	学びづくりタイムだけでなく，学年会の内容を見直し，授業づくりにあてる時間をうみ出していく。 また，「つなぐプロジェクト」を通して，行事を通して 子ども達についた力や成長の様子を交流し，やりがいを感じて業務に取り組めるようにする。	◎「子ども自ら学ぶ」授業づくりにあてる時間があると肯定的に評価した割合は９３％であった。仕事にやりがいを感じていると肯定的に評価した割合は９５％であった。 □学年会や研修の中での授業作りに関する話し合いの時間を設けることで，共通認識をもって授業を行うことができた。 □つなぐプロジェクトでは，子ども達の姿を可視化することで，子ども達が，自分の頑張りに気付いたり，教員同士で子どもの成長について話し合ったりすることができた。	4	4	4	つなぐプロジェクトを年間を通して実施し，子ども達も教員もつけたい力を明確にした取組を行う。また，振り返りを定期的に行うことで，より効果的な取組となるようにする。
				学校の取組を校内外に積極的に発信し，地域，保護者，学校間で情報共有を図る。	①通信（学校・学年・学級だより等）のデジタル配信の推進 ②取組の進捗や実態分析について，主任等による校内発信の活性化	保護者アンケート「御幸小の取組に満足している」 95%以上	□HPや通信・メール配信等でこまめに情報発信を行っている。HPやclassroomでは，学校行事や学年の取組を掲載し，日常的な様子を発信している。 □教育研究部や生徒指導部から定期的な通信を発信し，取組の共有を図っている。	3	2	今後も行事や各学年の取組の発信はもちろんのこと，生活科や総合の時間の取組の一環として地域とのつながりを大切にしていく。そして，学んだことを発信していき，地域・保護者の皆様と連携を図ることができるようにしていく。	◎保護者アンケートの肯定的評価は 90%であった。目標値には達していないが，全体的に肯定的な評価が多かった。 □校内での取組の共有はできていたが，classroom の活用状況にはクラスごとに差があった。	3	3	3	アンケートの回収率が６割程度だったため，学年ごとにメール配信したり，何度も呼びかけたりして回収率を上げ，アンケート結果に信ぴょう性をもたせる。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。